

大船渡市消防団だより

< 第 2 号 >

平成 16 年 5 月 15 日



平成 15 年度日本消防協会より「優良消防団」として受章

発行：大船渡市消防団 大船渡市盛町字木町 1 - 1 TEL 0192-27-2119

平成十六年度 新体制スタート

平成十六年度を迎え、鎌田団長以下団員一〇八人の大船渡市消防団が、新体制でスタートしました。

昨年の五月二十六日に発生した三陸南地震や、近い将来発生が予想される宮城沖地震などに備え、ますます防災体制の整備と強化が

必要となっております。

我々消防団もさらに練磨を重ね地域に根ざした防災の要として、市民の皆様にも愛され、信頼されるよう頑張っております。
本年度もよろしくお願いいたします。



New Fire Fighter 新入団員です

新分団長です



第2分団長 佐々木嘉幸



第4分団長 武田 満



第9分団長 佐藤 正明

所 属	氏 名
第2分団第1部	橋本 隆行
第2分団第3部	佐藤 和彰
第3分団第1部	及川 大輔
第3分団第2部	佐藤 大基
第3分団第2部	佐藤 誠
第3分団第3部	日野 雅貴
第4分団第2部	岩脇 幸平
第4分団第2部	紀室 寿行
第4分団第2部	村上 秀喜
第4分団第3部	村上 亮
第4分団第4部	上部 俊一
第4分団第4部	武田 知之
第4分団第5部	吉田 誠一
第5分団第1部	袖野 雄
第5分団第2部	亘理 拓也
第5分団第2部	志田 徳行
第5分団第2部	浦島 貴史
第5分団第2部	新沼圭史郎
第5分団第3部	志田 広隆
第5分団第3部	志田 玄紀
第6分団第1部	須賀 大貴
第6分団第2部	田端 隆太
第7分団第2部	澤田 剛
第8分団第1部	岡澤 正昇
第9分団本部	近江 敬一
第9分団第1部	佐々木 聖
第9分団第2部	鈴木 達也
第9分団第3部	鈴木 和
第10分団第5部	熊谷 栄太
第10分団第5部	熊谷 辰長
第10分団第6部	千田 直

退団者の皆さん ごくろうさんでした

旧所属	氏 名	旧所属	氏 名
5-1 部長	磯谷己智也	団本部長	矢作 清英
5-1 団員	赤坂 裕樹	1-2 部長	水野 利昭
5-2 部長	志田 善正	1-2 班長	伊勢 嘉雄
5-2 団員	石橋 貴志	1-3 部長	千葉 雅彦
6-1 部長	須賀 正広	1-4 班長	菊池 透
6-2 部長	金野 亨	1-4 団員	橘 健夫
6-2 団員	金野 正	2分団長	佐藤 執
6-3 団員	氏家 雅彦	2部 長	伊藤 充
6-3 団員	熊谷 豪	2-1 班長	阿部 祐士
7 班 長	横澤 茂	2-3 団員	新沼 長裕
7 団 員	今野 一夫	2-3 団員	佐藤 誠
7-2 班長	鈴木 徹	3部 長	濱田 浩司
7-3 団員	伊藤 和男	3-2 班長	船本 博章
8-1 団員	坂本 直也	4分団長	尾崎 渙悦
8-2 団員	上野 公	4-1 班長	新沼 久幸
9分団長	木下 彰作	4-1 団員	松岡 義明
9-1 部長	大森 徳正	4-3 部長	古澤 武人
9-3 部長	笹野 幸信	4-3 団員	鈴木 克也
9-3 班長	近江 学	4-5 班長	小松 利洋
9-4 団員	高橋 利英	4-5 団員	熊谷 太一
10-3 部長	森田 治夫	4-6 団員	村上 満
11-3 部長	里見 雅彦	4-6 団員	佐々木太千也
12-2 部長	庄司 満		
12-3 部長	東 三男		

退団された方がたの思い出ばなし

消防団生活をふり返って

前第四分団長 尾崎渙悦



消防団生活をふり返ってみると、大変貴重な経験をさせていただきました。

新人団員当時は、親子のくらい歳の離れた部長、班長の下で消防団活動が始まり、地域に密着することが出来ました。おそらく入団していなければ地域とのコミュニケーションが図れなかったでしょう。地域への密着が町へと、さらには市全体へと広がるようになっていきます。

階級が上がる毎に、たくさんの方と出会うことが出来、人との出会いにより横の繋がりが広まり、知識を吸収することが出来、他には経験の出来ない自分作りの場であったと思います。

入団当時、とある分団では「消防団に入団しない者は人に有らず。」と伝え聞いた事が有ります。最初は何のことか分かりませんでしたが、年数が増す毎に理解できるようになりました。

消防団とは、市民の生命、財産を守るためだけでなく、義勇と愛郷のもとに人作りの場でも有ると思えます。二十八年間在籍しましたが、大変有意義な団員生活だったと心に念じております。

退団にあたって

前第二分団長 佐藤 執



消防団の退団にあたり、一言御礼のあいさつを申し上げます。

消防団在任期間中は、諸先輩をはじめ団員の方々のご指導・ご協力により大変貴重な消防団活動をさせて頂きました。

在任中は、苦勞した記憶は余りなく、それ以上に

に素晴らしい仲間との出会いがあり、そして親交を深めさせて頂いた事は、何事にも代えがたい有意義な時間でした。

予測のつかない災害を常に頭のすみに置き、尚且つ団員不足の現状で一人一人の負担は増えるでしょうが、大船渡市消防団の益々のご繁栄と更なるご活躍をご期待いたします。



消防団の思い出

前第九分団長 木下彰作

昭和五十二年三月に「消防さ入れや」と言われ、半纏等の制服を置いていかれたのが始まりであった。

それから二十七年、自分でもよくやってこれたものだと思う。演習、台風、地震、遭難・行方不明者捜索、火災出動、思い起こせば後を絶たない色々な経験をしてきました。

特に毎年行われる一ヶ月余に及ぶ操法競技会の練習、長時間立ちっぱなしの出初式での寒さは格別であった。(ホースの展長が悪いのは、巻き方が悪いからと先輩に文句を言われたり、風邪を引いた事もあった。)

そうして過ごしている内に、平成十年に長男が入団、平成十四年には長女が入団し、家族三人での消防団活動が始まったのだ。

なんとと言っても一番の思い出は、家族三人で記念表彰を受賞した、昨年東京ドームで行われた自治体消防五十五周年記念式典ではなからうか。県消を代表しての気仙支部の分列行進、天皇陛下のお言葉は、二度と無い事である。

そして何事にも代えられないのは、団幹部として、市内全域においての人々との付き合い、人脈が出来たことではないだろうか。それもみんな、後援会をはじめ、先輩、家族の助けがあったればこそで、感謝の念でいっぱいです。

退団しての思い出

前団本部長 矢作清英



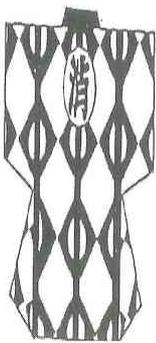
去る三月三十一日を以って、二十五年余にわたる消防団活動にピリオドを打ちました。

今、思い出す大きな出来事といえば、①夜を徹して巡視に当たった、十年前の三鉄の列車事故(現場は、現在の甫嶺屯所の目前)②長期間にわたる訓練をした、旧三陸町の日消の特別点検(この時に作業服を導入した)③市町合併同時の消防団の合併、などが挙げられます。殊に③に関しては、活動範囲の拡がりや、地域のバックアップ体制などのスタイルの違いに戸惑いながらの三年間でした。

しかし、二つの消防団員を経験するという、得がたい次期に居合わせたことは、まことにラッキーと言わばきかも知れません。

第一線からは退きましたが、現役の皆様の活動を見守りながら、これからも地域の防災に関わって行きたいと思っております。

また、退団に際して、素晴らしい記念品を有難うございました。大事にしたいと思います。皆様方のご活躍を祈念して、結びと致します。



退団はしましたが、今後は後援会の一員として、皆様の活躍を見守って行きたいと思っております。長い間ありがとうございました。

消防団ニューフェイス

第11分団第3部
及川 慎一郎



生年月日 昭和56年2月23日
勤務先 大船渡市役所
家族 父・母・妹・祖母
特技 パチンコ
趣味 麻雀・ドライブ・音楽鑑賞・映画を観るなど

好きな女性のタイプ

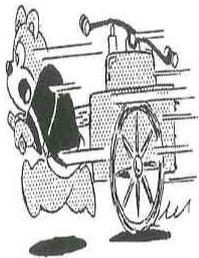
気の合う人・何でも話せてお互いに相談相手になれる人

消防団に対する希望

旅行を年2回にしてほしい。仙台と東京

先輩から一言

苦しいことも楽しいこともあるが共に分かち合ってやって行こう。



して行きたいと思っております。町内では、今年に入り2件の不審火と思われる火災が発生しております。地域の皆様の不安を払拭するためにも消防団では特別夜警を実施し、警戒を強化しています。最後に、消防団は市民の生命と財産を守るという使命のもと、これまで以上に地域の皆様に愛される消防団になるよう努めてまいりたいと思っております。

新分団長のあいさつ

新分団長として

第二分団長 佐々木 嘉幸

四月一日より大船渡市消防団第二分団長を拝命いたしました佐々木です。新任にあたり一言抱負を述べさせていただきます。まず、第一に団員の確保として、町内会、防火婦人部、消防OBのご協力をいただき、団員数の拡大を図って行きたいと考えます。また、吸放水訓練、操法競技会、小隊訓練等を通して、「団員一人一人のレベルアップ」を目指し、「明るく・楽しく・元気良く」をモットーに、消防団活動ができるよう頑張ります。

分団の運営と抱負

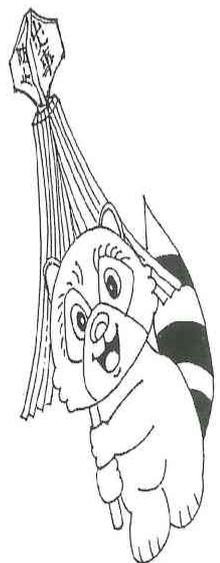
第四分団長 武田 満

新分団長として、この紙面をお借りし、分団運営と抱負を述べさせていただきます。まず、分団運営の課題として、団員の確保があります。部によっては、団員の減少は深刻で、分団内で部の合併が検討されているところですが。団員の確保には、なにより地域の皆様の消防団活動に対するご理解が必要で、それには、地域の行事等に積極的に参加し、住民との交流を深めることが大切であると思えます。

また、事業所のご協力も欠かせません。経済情勢の厳しい昨今ではございますが、団員の任用に対し深いご理解とご支援を願う次第です。次に防災力の強化として、隣接する小友分団と昨年交流会を開き、防災活動での相互協力を話し合いました。防災に強い街づくりのためにも、これからもこうりゆうを深め、連携して行きたいと思っております。地域の方には、日頃から消防団活動に對しまして、ご指導とご協力を頂きありがとうございます。今年度から九分団の分団長を務めることになりました。私の入団のきっかけは、地域の先輩が家に来て、都合の良い時だけ出れば良いと言って、印鑑と引き換えに半纏を置いて行かれたことから始まりました。入団当初は消防団活動の意識も薄く、一年半位出勤しませんでした。初めての出勤は、台風による河川の増水の為、土嚢積み等をの災害防止活動を行い、被害の拡大を防いだ時です。地域の人に言われた「ありがでや、ありがでや、おがげさまで助かりやんすた。」この二十五年前の一言と、炊き出しのおにぎりの味が、私の消防団員としての心の支えになってきました。近年消防団を取り巻く環境も変化しており、ほとんどの地域では、消防団員数が減少しています。私は、団員と地域の若い人達との親睦を図れるような環境をつくり、自分たちの地域は自分たちで守るといふ郷土愛護の精神を理解して頂き、少しでも多くの若い人達が進んで入団するよう魅力ある九分団を築いて行きたいと思えます。これまで以上に地域の皆様のご協力をお願いします。

新分団長として

第九分団長 佐藤 正明



大船渡市消防団 纏組

元第一分団長 鈴木 博司

昭和三七年 市制十周年記念
一関より先生を呼んで実施
昭和五五年一月八日
市消防出初式
十八年ぶりに復活する

注 昭和三七年より団としては休むも、一分団一部では続けて纏振りをしてきた。昭和五四年十一月末、団長より纏組を復活させてほしいとの要請有り。団幹部会に認められ、私が責任者に指名された。纏の修理、新人指導、纏歌の作成と年末の多忙なところ、熱心な団員の協力のもと、出初式に立派に披露出来た。

一分団一部の団員の協力と、組員のまじめさが身を結んだ結果と思う。
纏組について

昭和三七年大船渡市市制十周年記念として、消防団の出初式に纏組み披露を団として計画する。

一関より纏の先生を頼んできて、消防署にて各分団より選抜した。

団員四〇五〇名位と思う数の団員に、纏を指導することとなった。

その中に小生も含まれていたが、年末の仕事多忙で、思うように練習出来なかった。申し訳を言いつつ辞任しようとしたが、許さなかった。

団の纏は、二年で消えてしまった。

だが、小生は市民の安全と消防の勇氣を持續させるために必要と考えて、一分団一部だけで続けることを考え、部会に諮った。私は当時団員で、部の会計をしていた。部会の中で纏組の必要性を熱意を持って話して理解に努力した。

その結果、分かっていたいただき、全部員に幾らかずつ幾らかずつ纏振りを指導して、出初式の当日、団と分団の行事が終わった後、吉野町、上木町を一戸残らず纏で清め

て回った。

非常に喜ばれた。木町、本町、田茂山の方面まで引き回されて、夜七時〜八時頃まで頑張った。

だが、二日くらい後に、地方新聞に投書があり、消防がホイドのような事をしていると言う様な内容であった。

その後も三年くらいあった。

だが、私は恐れなかった。
そして、昭和五四年の年末、団本部より、市消防団に纏組を復活させてほしいとの申し入れがあり、お願いされたので引き受けた。

大変だった。
纏は破れて修理が必要。予算が少ない。日数が少ない。

そこで一分団一部の団員を、それに一分団の中から覚えていた団員を招集して、指導員として使った。

私は纏修理のため、署の菊地君と連絡を取りながら、修理に必要な部品の購入と、修理する人の確保に努力した。

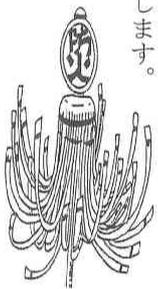
その一人は大工さんの確保である。
現副団長の紀室さんが纏組みに入ったので、修理に頑張ってもらった。

菊地君にはそれぞれ努力して頂き、何とか見通しが立ったのは、年越しに幾日も無かった頃であった。

また纏歌を作ったのも、そんな忙しい中で考えて作った。

一部の団員の声の良い千葉太君に歌わせ、部員に掛け声を掛けさせ、何とかこれも形が出来た。

出初式に無事に発表できた事を喜ぶと同時に、各団員の皆様の努力と協力に心より感謝いたします。



消防団 ニューフェイス

第9分団第1部

佐々木 聖

生年月日 昭和60年9月21日
勤務先 三陸木材高次加工協同組合
家族 父・母・姉
特技 特になし
趣味 野球、バドミントン
好きな女性のタイプ やさしいひと
消防団に対する希望 楽しく
先輩から (9-1部長 新沼 安)



消防団 ニューフェイス

第2分団第1部

橋本 隆行

生年月日 昭和49年9月11日
勤務先 甫嶺小学校
家族 両親と兄
特技 特にありません
趣味 軽い運動ははじめました
好きな女性のタイプ スポーツをする女性
消防団に対する希望 お手やわらかにお願いします



入団おめでとうございます。消防団活動については、まったく未知の世界だと思いますが、団員は、皆さん親切な人ばかりなので、団員とのコミュニケーション・地域に密着した活動を通して徐々に覚えてください。そして、有事の際は団員一丸となって取組み、地域に無くてはならない組織として一緒に頑張りましょう。

連 載
大船渡の火災史
大船渡消防署 木村正継

(概ね5戸以上の火災又は
民家以外の火災)

この年表は、永年にわたって地域の古文書の解読を続けてこられた大船渡町在住のNHK学園古文書講座講師渡辺兼雄先生が、大船渡市老人クラブ発刊の「おおふなと昔がたり第6号」に寄稿した年表が基本になっています。また、出典中の渡辺・口村〇〇家古文書とは、渡辺先生の解読文書であり、角屋敷久助覚牒も同様です。出版物以外の火災は、先生の解読が無ければ出来なかつたと言えます。

その年表に、消防署に勤務している木村正継が、各出版物から拾い少しずつ書き加えて作成したものです。今回は、高田市・住田町分を割愛しています。



西 暦	和 暦	記 事	出 典
1556	弘治 2	3月 日頃市村長安寺焼失	長安寺系図伝記
1625	寛永 2	赤崎村蛸ノ浦尾崎神社焼失	岩崎浅之助気仙年代表
1634	寛永 11	日頃市村五葉山日枝神社神社焼失	日頃市村郷土誌
1648~1651		盛村洞雲寺焼失、四世代の慶安年間	岩手のお寺さん沿岸南部と遠野
寛文2年は、1662		越喜来村円満寺は、火災で焼失した後、寛文2年再建したがいくばくもなく再度焼失	岩手のお寺さん沿岸南部と遠野
1714	正徳 4	10月21日、越喜来村104戸焼失 12月21日、越喜来村140戸焼失 綾里村、常松山、長林寺焼失	齊藤竹堂循海日牋 唐丹小史 三陸町史第3巻
1737	元文 2	2月20日、立根村名家、舞良出火	岩崎浅之助気仙年代表
1748	寛延 1	8月10日、田茂山村106件焼失	角屋敷久助覚牒
1752	宝暦 2	8月5日、吉浜村根白11軒焼失	陸前高田市吉田家文書
1755	宝暦 5	2月6日、田茂山村170戸焼失 類焼人頭54人 (陸前高田市、吉田家文書) 2月6日、田茂山村170戸焼失	渡辺・猪川村鈴木家及び・水野家文書 陸前高田市吉田家文書 唐丹小史
1758	宝暦 8	5月7日、吉浜村、塩煮釜屋及び御塩蔵焼失	陸前高田市吉田家文書
1759	宝暦 9	2月6日、赤崎村蛸ノ浦御塩蔵焼失、原因は、伊勢参宮人のたばこ火の不始末 3月20日、夜、田茂山町類焼45軒あり、お札屋も焼失 10月8日、赤崎村合足濱 塩煮釜屋及び御塩蔵焼失	陸前高田市吉田家文書 陸前高田市吉田家文書
1761	宝暦 11	2月20日、田茂山村町場5割焼失 12月8日、吉浜村根白真称寺類焼、寺・火元、類焼26戸	渡辺兼雄・猪川村鈴木家文書
明和年間		綾里村、羽黒派南光院(松柏山福田寺)現在の御山焼失 14世法印融仙の時	三陸町史第3巻
天明年間		綾里村、羽黒派南光院(松柏山福田寺)現在の御山焼失 再び、14世法印融仙の時	三陸町史第3巻
1788	天明 8	1月1日、赤崎村蛸ノ浦、尾崎神社焼失	渡辺兼雄・猪川村水野家文書

火災にまつわる物語

年表中の宝暦2年8月5日、根白の火災の前後に連続して気仙管内に大きな火災が起こった。

5代藩主伊達吉村の子供と噂される、お姫様の駆け落ち事件があり、お姫様の通過した各地で火災が起こっている。

陸前高田市110戸・大船渡市三陸町11戸・釜石市唐丹町61戸(当時は気仙郡唐丹村)の記録がある。

桃生郡北上町で発生した「不義密通の上、殿様を

殺し、奥方と家来が南部の国を目指して、手に手を取って逃げる」というショッキングな事件だった。

最近になるまで、「口説き=唄うが如く語る或いは、語るが如く唄う」と言う芸能で語り継がれていた。

昭和30年台頃迄この物語が、芝居として上演されていたとの話もある。

「なんと喜右衛門徒然じゃないか」この芝居のセリフを覚えているお年よりもまだ健在である。

第6分団第3部紹介



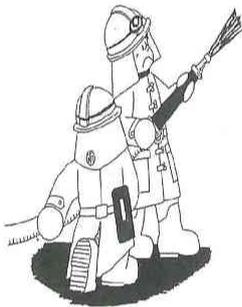
第六分団第三部は、赤崎町の北部、佐野・沢田・赤崎中井の三つの地域（通称「上三区」）を管轄して活動しています。この地域は区画整理によって、一躍新興住宅の感を呈してきております。当然、「世帯数が多いのだから消防団員も確保しやすいだろう。」と思われがちですが、対象年齢の若者は確かにいるものの、消防団活動を積極的に行おうという若者は少ないのが現状です。この傾向は大分前から続いており、当部の体制を維持する上で大きな課題となっていました。

ちようど、大畑現六分団長が、沢田公民館の青少年育成部長で、赤崎小学校のPTA会長を勤めた昨年、「地域の子どもたちに、消防団活動を少しでも理解してもらえような活動を、合同で行えないか。」と提案されました。そこで昨年の秋の火防点検から、地域の小学四年生以上の子供たちと一緒に、一般家庭への火防点検を始めました。

この試みは、単に子供たちに火災予防や消防団活動を理解してもらうだけでなく、地域にどんな人が住んでいるのか、各家庭を訪問して声掛けすることによって、地域を理解してもらえる効果もあります。そして何より地域貢献を意識付けできる良い機会でもありました。

実際に行ってみますと、地域の多くの方々から、子供たちにねぎらいの言葉をかけていただいたり、おやつをもらったりしていただきました。寒い時期にもかかわらず、心温まるふれ合いが見受けられました。（地域の皆さん、ありがとうございます。そして、これからもよろしく願います。）

そして、近い将来、参加してくれた子供たちが一人でも多く、「消防団活動に参加してみようかな。」と意識化に根付いてくれたらなと、「未来の消防団員」に期待しているところです。



消防団 ニューフェイス

第4分団第3部
村上 亮



生年月日 昭和55年10月3日

勤務先 大船渡市役所

家族 父・母・姉

特技 特にありません

趣味 読書

好きな女性のタイプ

やさしい人

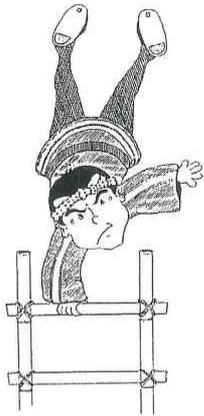
消防団に対する希望

火事の少ないまちにして
ほしいです。



平成16年に入り、例年になく火災や遭難などがあいついで発生していることから、市民の安寧を祈願するため、4月25日、天神山にて防災祈願祭を行いました。これからも、市民の安全を守るため一致団結して、防災に力を注いでまいります。

消防団の主な年間行事・活動



- 四月 団幹部・ラッパ隊辞令交付式
- 五月 防災訓練（主会場・綾里地区）
新入団員辞令交付式・市定例表彰式
- 大船渡市消防団設立五十周年記念式典（大船渡市民体育館）
祝賀会（まるしち会館）
- 六月 市内消防操法競技会
- 七月 支部・県消防操法競技会
- 八月 お盆特別警戒
- 十月 秋季消防演習
- 十一月 秋季火災予防運動
一般家庭火防点検
- 十一月 纏組辞令交付式・結団式
- 十二月 年末特別警戒（夜警開始）
- 一月 年始特別警戒
消防出初式
- 三月 春季火災予防運動
一般家庭火防点検
山火事予防運動

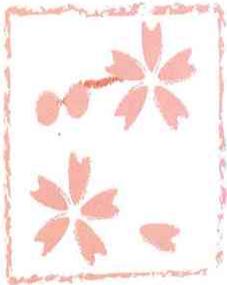
編集後記

四月二七日、桜も散ってしまい朝から雨が降り、肌寒い一日でした。第二回消防団広報誌の編集も本日を持って終了いたしました。スタッフの皆さん、本当にご苦勞様でした。

桜の季節になると、故郷の良さを再認識する自分ですが、この広報誌を読んでいただきました皆様は、いかがでしょうか。

「日本に生まれて良かった大船渡に生まれて良かった。」

と、勝手にいい気持ちになれるこの季節ですが、どうぞ皆様火の用心だけはお忘れなく。



消防団員
募集中！

平成15年火災発生状況

種別	件数
建物火災	8
林野火災	1
車両火災	3
その他	4
合計	16

損害額 67,869,000 円